

佐藤雅彦
戸田村出身。沼津東高校、東京大学教育学部を卒業後、電通クリエイティブ局を経て、1999年、慶應義塾大学環境情報学部教授に招聘される。2006年より東京藝術大学大学院映像研究科教授。研究室活動を中心に、「NHK教育テレビ」「タコノスィッチ」「考えるカラス」などの企画・監修を手がけている。



沼津に熱中する。

頼重秀一
沼津市出身。第32代沼津市長。大学時代は理工学部建築学科で建築やデザインに熱中する。2003年に沼津市議会議員に初当選後、2017年に沼津市議会議長に就任。2018年より本市の市長を務めており、市政運営におけるスローガンは「誇り高い、元気なまち 沼津」。



市長 2020
新春対談

毎年広報めまづでは、一年の始まりに、市長と沼津にゆかりの深い著名人や有識者が語り合う「市長新春対談」を掲載しています。

今回の新春対談は、本市出身の東京藝術大学大学院教授、佐藤雅彦さんをお迎えしました。

対談のテーマは「熱中すること」。佐藤さんが培ってきた知見や経験を参考に、今後の沼津がもっと誇り高い、元気なまちになっていくためのヒントやクリエイターの立場から見た沼津の可能性など、対談の内容は多岐にわたりました。

沼津のことを愛してやまない市長と佐藤さんが語り合う言葉の一つひとつには、市民の皆さんにもお伝えしたい、沼津の可能性が含まれています。

クリエイティブを育てた戸田の海

【市長】 明けましておめでとうございます。実は、実は、私も息子も「ピタゴラスイッチ」のファンで、佐藤雅彦さんとお話できる機会をとても楽しみにしておりました。どうぞよろしくお願いたします。

【佐藤】 ありがとうございます。昨年は市民文化センターで「分かってもらうための方法」というタイトルで講演をさせていただきました。

【市長】 興味深いお話で、大変好評でした。CMを中心にクリエイターとして輝かしい実績がある佐藤さんですが、その発想のベースは戸田での幼少期の体験にあるのではと思っています。

【佐藤】 僕は昭和29年に、戸田村に生まれました。前年の昭和28年にはテレビ放送が始まりましたが、もちろん戸田にはまだテレビは一台もないし、それどころか、おもちや屋も本屋もないそれでも退屈せず、海や山で夢中になって遊びました。特に、海はすぐ近くで、毎日行きましたから、アメフラシやヒトデは友達と同じです。そんな環境で仲間と一緒に、数限りなく遊びを作り出しました。廃材と自転車を組み立てた自走式のいかだで、おぼれかけて大変な騒ぎになったこともあります。